

ダブルライセンス取得を目指す学生の職業決定に至るプロセスと影響要因

楠 本 彩 乃¹⁾ 佐 野 恵美香²⁾

1) 杏林大学保健学部看護学科看護養護教育学専攻4年

2) 杏林大学保健学部看護学科看護養護教育学専攻基礎看護学

目的

本研究は看護師と養護教諭のダブルライセンス取得を目指すA大学看護学科B専攻の職業選択について調査し、職業決定のプロセスとその影響要因を明らかにすることを目的とした。

方法

対象者はB専攻の卒業生388名とし、A大学ホームページ被験公募情報で公募した。先行研究を参考に独自の調査票を作成Microsoft formsでの無記名Web調査を実施した。調査内容は基本情報、卒後の職業について、在学中の職業選択についてである。得られた量的データは単純集計及びSpearmanの順位相関係数を算出、質的データは共起ネットワーク解析でカテゴリ化した。本研究は杏林大学保健学部倫理審査委員会の承認を得て行った（承認番号：2024-6）。

結果

研究に同意の得られた96名（回収率24.7%）が回答し、有効回答率100%であった。転職回数と卒後1年目の職業満足度は $\rho = -0.321$ （ P 値 = 0.00143）で弱い負の相関がみられた。入学時から4年生後期の各期の志望職種は1年生後期までは「養護教諭」が最多で、2年生前期から「看護師」が最多で、職業選択への葛藤は、「少しあった・非常にあった」と回答したものの割合が2年生後期から3年生後期に増加した。職業選択に影響した出来事は、「看護実習」が66名（68.8%）、「養護実習」が42名（43.8%）、「友人との会話」が28名（29.2%）であった。在学中に活用してよかったサポートは、看護師就職が「先輩からの話」「経験者からのアドバイス」「子どもと関わる学外活動」「実習で現場を知る」「友人への相談」、養護教諭就職が「先輩からの話」「経験者からのアドバイス」「子どもと関わる学外活動」「実習で現場を知る」であった。

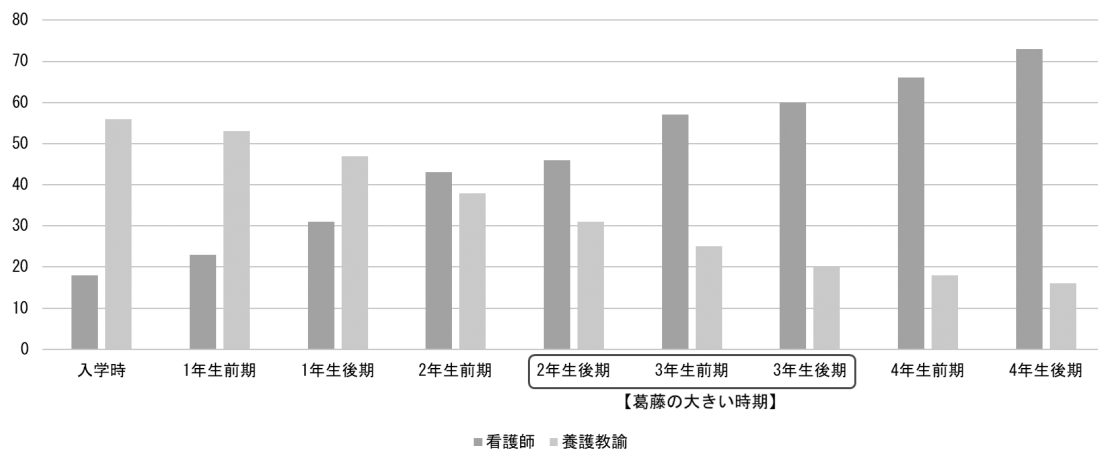


図1 各期の志望職種と職業選択への葛藤

入学時から4年生後期の各期の志望職種は、2年生前期に「養護教諭」から「看護師」が最多へと変化した。職業選択への葛藤は、2年生後期から3年生後期にかけて葛藤していた割合が大きかった。

考察

在学中に志望職種が変化する学生が多くおり、看護師・養護教諭就職とも実習から現場を知り、加えて先輩からの講話や経験者・教員からの直接的なアドバイスで、職業イメージをより具体的に持つことにつながっていた。看護学・養護学を同時に学ぶB専攻で学びを深めていることが将来どのように生かされているのか、職業選択への葛藤が始まる2年生前期頃から就職へのサポートをすることで職業へのイメージを持ち、志望職種へのモチベーション維持につながると考察された。

謝辞

この度、第14回学生リサーチ賞を受賞させて頂き大変光栄に存じます。選考委員の先生方ならびに関係者の方々に厚く御礼申し上げます。また本研究にご協力いただきました看護養護教育学専攻の卒業生の皆様ならびに先生方、研究遂行にあたり適切なお助言をくださった基礎看護学研究室の先生方に深く感謝いたします。

【指導教員】 保健学部看護学科看護養護教育学専攻 准教授 佐野恵美香